

CCOP 第 60 回年次総会・第 83 回管理理事会 参加報告

内田 洋平¹

1. 第 60 回年次総会

CCOP (Coordinating Committee for Geoscience Programmes in East and Southeast Asia : 東・東南アジア地球科学計画調整委員会) は、東・東南アジア地域の経済発展と生活レベル向上を目指し、地球科学分野の研究プロジェクトやワークショップの推進・調整を行う政府間機関です。現在、16 の加盟国、14 の協力国及び 18 の協力機関で構成されています。年次総会は概ね加盟国の持ち回りで開催されており、第 60 回 (2024 年) 年次総会は 11 月 3 日～7 日にマレーシア主催によってランカウイ島にて開催されました。

年次総会における主な行事は以下の通りでした。

- 11 月 3 日 (日) 10 時～12 時：財政委員会
- 11 月 4 日 (月) 9 時 30 分～17 時：年次総会本会議
- 11 月 5 日 (火) 9 時～17 時：同本会議
- 11 月 6 日 (水) 9 時～17 時：技術セッション
- 11 月 7 日 (木) 8 時～17 時：地質巡検 (ランカウイ スカイブリッジ、キリムジオフォレスト公園、及びその周辺)

1.1 第 28 回財政委員会

出席者は委員会のメンバー (ブルネイ、インドネシア、日本、マレーシア、フィリピン) と名誉顧問の 2 名 (デンマーク、マレーシア)、CCOP 事務局からの 5 名でした。

委員会では、主に以下の 5 点について報告と議論がされました。

- ・加盟国 (東ティモール) からの協力金が 2020 年より未払いであった。この支払いの遅れに関して、CCOP 事務局による働きかけの結果、支払いが再開し、東ティモールの再加盟に関する MOU を本年度の年次総会において締結する運びとなった。
- ・監査報告 (2024 年 1 月～6 月) を国際標準様式で実施中。
- ・事務局メンバーの給与水準を一定程度確保しつつ、CCOP の活動をより活性化させるため、加盟国の年間協

力金増額の可能性を探る。本議題については、第 83 回管理理事会で議論する予定。

- ・CCOP 事務局が入る建物の外装改修のため、CCOP 予算から約 USD 12,000 の支出を求める。
- ・2025 年度 (1 月～12 月) の予算計画については、2024 年度よりも USD 57,862 程度削減する予定。収支バランスについては、引き続き、大きな変化を出さないよう努める。

1.2 第 60 回年次総会

配付資料に基づく情報では、参加者数は 143 名で、内訳は以下の通りです (写真 1)。

- ・加盟国：ブルネイ (2 名)、カンボジア (4 名)、中国 (16 名)、インドネシア (6 名)、日本 (10 名)、韓国 (14 名)、ラオス (5 名)、マレーシア (24 名)、ミャンマー (1 名)、フィリピン (2 名)、タイ (20 名)、東ティモール (8 名)。
加盟国のうち、モンゴル、パプアニューギニア、シンガポール、ベトナムは不参加
- ・協力国：デンマーク (1 名)、ドイツ (1 名)、英国 (2 名)
- ・協力機関：Hanyang 大学 (韓国：5 名)、欧州地質調査所 (1 名)、国際地質科学連合 (International Union of Geological Sciences: IUGS) (中国：2 名)、(独) 国際協力機構 (Japan International Cooperation Agency: JICA) (日本：1 名)、マレーシア国民大学 (マレーシア：6 名)
- ・名誉顧問：1 名 (マレーシア)
- ・オブザーバー：2 名
- ・CCOP 事務局：9 名

また、日本からの参加は以下の 11 名でした (敬称略)。

地質調査総合センター (GSJ) (10 名)：中尾信典 (総合センター長)、今泉博之 (副総合センター長)、内田洋平 (連携推進室)、藤原 治、宝田晋治、Joel Bandibas (活断層・火山研究部門)、松本親樹、飯島真理子、西方美羽、Tum Sereyroith (地圏資源環境研究部門)

JICA (1 名)：細井義孝

以下、会議の主な概要を紹介します。

¹ 産総研 地質調査総合センター連携推進室

キーワード：CCOP、年次総会、管理理事会、マレーシア、ランカウイ島



写真1 CCOP 年次総会グループ写真 (CCOP 事務局提供).

(1) 開会式

開会式は、CCOP 管理理事会副議長 Datuk Zamri bin Ramli 氏 (CCOP マレーシア代表・マレーシア鉱物地球科学局長) の歓迎の挨拶から始まりました。引き続き、CCOP 諮問委員会委員長 Ioannis Abatzis 氏 (デンマーク CCOP 代表、デンマーク地質調査所) と CCOP 管理理事会議長 中尾信典氏 (CCOP 日本代表) による本年次総会へのメッセージ、最後に、マレーシア天然資源・環境維持省 事務次官 Puan Norsham binti Abdul Latip 氏による開会の挨拶がありました。

(2) MOU 調印式

第28回財政委員会の報告にあったように、加盟国である東ティモールの2020年からの協力金支払いの遅れに関して、CCOP 事務局による働きかけの結果、支払いが再開しました。それを受けて、本年次総会において、東ティモールのCCOPへの再加盟に関する調印式が行われました。

(3) CCOP 事務局活動報告

Young Joo Lee 氏 (CCOP 事務局長) が、CCOP の2023年下半期及び2024年上半期の活動報告と財務報告を行いました。続いて、CCOP の新プロジェクトコーディネーターとして着任した、Tola Sreu 氏 (前 カンボジア工科大学) の紹介がありました。Tola Sreu 氏は、新規 CCOP プロジェクトである Critical minerals management and strategy for sustainable environment in ASEAN (ASEAN における持続可能な環境のための重要鉱物管理と戦略) を担当します。なお、本プロジェクトは ASEAN-KOREA 協力基金が原資となっています。

続いて、加盟国の新代表者として、再加盟した東ティモールの Job Brites dos Santos 氏 (CCOP 東ティモール代表、東ティモール地球科学研究所所長) が紹介されました。また、CCOP 協力国の代表として、Sonia Talwar 氏 (カナダ地質調査所所長) が2024年5月に任命されたことが報告されました。

次に、各 CCOP プロジェクトの活動についての概要報告がありました。現在、数多くの CCOP プロジェクト及び研修が実施されています。GSJ では、CCOP-GSJ Groundwater Project Phase IV (2023年度で終了)、Geoinformation Sharing Infrastructure for East and Southeast Asia (GSi) Project 及び CCOP-GSJ 国際研修の3件を実施しており、こちらについても紹介されました。

(4) 加盟国、協力国、協力機関の活動報告

各加盟国の2023年7月から2024年6月における活動報告として、年次総会に出席していたブルネイ、カンボジア、中国、インドネシア、日本、韓国、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、タイ、東ティモールの12か国が報告を行いました。その内容としては、地質図のほか、地下水、地質災害(地すべり、地盤沈下)、気候変動、地下資源などに関する事項が多かったです。なお、日本の報告は著者の内田が行いました。GSJ の組織体制・ミッション、GSJ が実施している CCOP プロジェクト、GSJ の2023年後半～2024年前半の地質災害に伴う緊急調査・発信、地質図発行やプレス発表を行った研究成果などを紹介しました。

協力国の活動報告は、デンマーク、ドイツ、英国の3か

第1表 GSJからのセマティックセッション発表リスト.

Title	Author(s)	Session
Web Services and Machine Learning Algorithm for Mapping Disaster Areas Using Satellite Images	Joel Bandibas and Shinji Takarada	TS3
GSJ's Commitment to Building a Disaster-Resilient Nation	Osamu Fujiwara and Members of High-Precision Digital Geological Information Improvement Project for Disaster Prevention	TS3
Accumulated phosphate in calcareous sediment is an effective indicator of terrestrial load, linked to coral density and bleaching: A case study from Sekisei Lagoon, Japan	Mariko Iijima, Jun Yasumoto, Takashi Nakamura, Akira Iguchi, Shugo Watabe and Ko Yasumoto	TS1
Effects of natural factors on wetland treatment system for the purification of mining-influenced water	Shinji Matsumoto	TS1
Standardization of performance evaluation tests for adsorbents used in the remediation of geogenic contaminated soils	Miu Nishikata, Kazuya Morimoto, Yukari Imoto and Tetsuo Yasutaka	TS1
Evaluating Pilot-Scale Passive Treatment of Manganese and Zinc at a Legacy Mine: Implications for Sustainable Mine Practices	Sereyroith Tum, Taiki Katayama, Naoyuki Miyata, Miho Watanabe, Takaya Hamai, Yuki Semoto, Miu Nishikata and Tetsuo Yasutaka	TS1
Digital Transformation Activities in Geological Survey of Japan, AIST: Development of Geological Hazards Information System and Volcanic Hazards Information System	Shinji Takarada, Joel Bandibas, Yuhki Kohno, Emi Kariya, Shuho Maitani, Misato Osada and Fumihiko Ikegam	TS3
Utilization of Groundwater Flow Information for Effective Ground-Source Heat Pump System	Youhei Uchida and Akira Tomigashi	TS2

TS1 : Geoscience for Sustainable Future

TS2 : Energy Transition

TS3 : Climate Change and Disaster Resilience

国が発表しました。また、協力機関からは、Hanyang 大学（韓国）、IUGS（中国）、JICA（日本）、マレーシア国民大学（マレーシア）が報告を行いました。

(5) 2025 年活動計画案, その他活動報告

CCOP 事務局より新規プロジェクト並びに 2025 年活動計画案の概要紹介がありました。GSJ が主催しているプロジェクト・事業としては、Geoinformation Sharing Infrastructure for East and Southeast Asia (GSi) の 2025 年ワークショップ開催予定、GSJ 国際研修の開催・案内、また、新規プロジェクトとして、CCOP-GSJ Groundwater Project Phase V (2025 年度～2029 年度)の提案が紹介されました。

(6) 2025 年以降の年次総会について

2025 年以降の年次総会・管理理事会の開催予定は、以下となっています。

第 61 回年次総会・第 85 回管理理事会：2025 年 11 月 2 日～7 日、ラオス・ビエンチャン

第 62 回年次総会・第 87 回管理理事会：2026 年 10 月 25 日～30 日、日本・つくば市

なお、本総会の議長を Datuk Zamri bin Ramli 氏、副議

長を今泉博之氏 (GSJ) が担当しました。

1.3 技術セッション

技術セッションは、以下の 3 つのテーマがセットされていました。

TS1 : 地球科学と持続可能な未来

TS2 : エネルギーの転換

TS3 : 気候変動と災害への強靱化

全発表件数は 63 件で、そのうち日本 (GSJ) からのセッション発表は 8 件でした (第 1 表)。昨年度の技術セッション (43 件) よりも発表件数が大幅に増えており、特に各国共に若手研究者が多く参加・発表していました。また、いずれのセッションも、活発な質疑応答が行われていました。

2. 第 83 回管理理事会

第 60 回年次総会に引き続き、2024 年 11 月 8 日に第 83 回管理理事会が開催されました。GSJ からは、中尾信典 (総合センター長)、今泉博之 (副総合センター長)、内田洋平 (連携推進室)、宝田晋治 (活断層・火山研究部門)、松本



写真2 CCOP 管理理事会グループ写真 (CCOP 事務局提供)。

親樹・飯島真理子(地圏資源環境研究部門)の6名が参加しました。

出席者は、加盟国より36名(ブルネイ2名、カンボジア4名、中国1名、インドネシア3名、日本6名、韓国2名、ラオス4名、マレーシア3名、ミャンマー1名、フィリピン3名、タイ4名、東ティモール3名)、諮問委員会(Advisory Group)2名、オブザーバー(英国地質調査所)1名、CCOP事務局9名の計48名でした(写真2)。

以下、会議の概要を紹介します。

(1) 開会式

CCOP管理理事会副議長Datuk Zamri bin Ramli氏の歓迎挨拶に引き続き、中尾信典氏(第83回管理理事会議長、日本CCOP代表)による開会挨拶がありました。

(2) CCOP 2024年(1月～6月)の活動報告

Young Joo Lee氏より、2024年上半期の活動報告として、財政状況の概要が報告されました。また、第81回管理理事会(タイ王国カオラック開催)、第82回管理理事会(カンボジアシェムリアップ開催)、その他、各プロジェクトにおける活動状況が報告されました。

(3) CCOP 新たな取り組みと2025年度作業計画案

Young Joo Lee氏より、CCOP新規プロジェクトとして、CCOP GeoAI Data Society International Symposium(2024～2026の3か年/第1回は2024年3月末に実施済)、CCOP GSJ Groundwater Project Phase V(2025～2029の5か年)、Eastern Asia Earthquake and Volcanic Hazards Information Map(2nd Edition)(2025～2027の3か年)及びCCOP Expert Groupの4件について提案が行われました。引き続き、2025年活動計画におけるプロジェクト等が紹介されました(現在進行中及び2025年開始を含めて、研究プロジェクト8件及びトレーニングプログラム5件を

実施中)。

Young Joo Lee氏の発表に引き続き、新規提案の研究プロジェクトについて、GSJの松本親樹氏よりCCOP GSJ Groundwater Project Phase V、宝田晋治氏よりEastern Asia Earthquake and Volcanic Hazards Information Map(2nd Edition)の詳細について発表が行われました。2件の提案について質疑応答が行われたのち、本新規プロジェクトの提案は全会一致で承認されました。

(4) 財政委員会報告

Dato' Yunus Abdul Razak氏(CCOP諮問委員会副議長)より、2024年11月3日に開催された財政委員会による、CCOPの財政に関する提案が発表されました。その他、財政委員会からは、今期でブルネイとフィリピンが退会し、次期委員会よりカンボジアとミャンマーが参加することとなりました。その他の国については継続となります。

(5) 2025年度CCOP予算案及び2024年度予算の状況報告

Young Joo Lee氏により、2025年CCOP予算について、歳入:USD 542,126、歳出:USD 542,126の案が発表され、参加国一致で承認されました。2024年度の決算額(USD 599,988)と比較して、USD 57,862の削減となります。

CCOP事務局としては、経費節減に努力しつつも世界的な物価上昇等を鑑み、加盟国の加盟費値上げを希望・提案しました。各国とも現時点で加盟費値上げについては即答できないため、自国へ持ち帰ることとなりました。本件については次回の管理理事会(2025年3月ベトナム)で議論する予定です。

(6) 諮問委員会からの提言

Ioannis Abatzis氏(CCOP諮問委員会議長)より、2024年11月3日に開催されたCCOP諮問委員会からのCCOP活動・運営に関する提言が報告されました。特に、エキス

パートグループについては、各グループに議長・副議長を加盟国・協力国から選出すること、諮問委員会の現議長・副議長については1年延長すること、2025年年次総会において諮問委員会の新議長・副議長を選出するため、CCOP事務局はオンライン諮問委員会を開催します。なお、諮問委員の任期については、各国より意見を11月20日までにCCOP事務局へ提出、それに基づき事務局は現行の内規を修正します。

(7) 次回以降の年次総会・管理理事会の開催予定

①第84回管理理事会*

・開催国：ベトナム ニャチャン 2025年3月18日～20日 → 3月3日～6日に変更

※本会議にベトナム代表は不参加、次回管理理事会の主催可否は未定であり、もし主催不可の場合はタイ・バンコクで開催される見込み。

②第61回年次総会・第85回管理理事会

・開催国：ラオス ビエンチャン 2025年11月3日～7日

③第86回管理理事会

・開催国：ブルネイ 2026年3月30日～4月2日

④第62回年次総会・第87回管理理事会

・開催国：日本 つくば市 2026年10月25日～30日

⑤第63回年次総会・第89回管理理事会

・開催国：フィリピンが立候補 2027年11月を予定

(8) その他

CCOP事務局より、次の事務局長(任期：2025年4月1日～2028年3月31日)の選挙について、スケジュールが示されました。現在、タイと中国の2か国より立候補があり、選挙管理委員長はミャンマーが選出されました。11月18日：投票締切、11月25日：開票、12月16日：新事務局長契約、4月1日：新事務局長着任の予定です。

また、CCOP事務局より新名誉顧問として、Shahar Effendi Abdullah Azizi氏が推薦され、承認されました。

3. おわりに

今回のCCOP年次総会及び管理理事会は、昨年度の年次総会(タイ・カオラック)に引き続き、完全対面会議でした。会議のみならず、休憩時間や昼食・夕食時にも活発に情報交換や議論がされており、充実した1週間でした。また、GSJの若手研究者も年次総会に出席し、国際会議の運営・進行を知る良い機会になったと思います。また、技術セッションでは積極的に発表を行い、海外の研究者との親交も深まったのではないのでしょうか。来年度も、GSJ若手研究者の多くの参加を期待しています。

UCHIDA Youhei (2025) Report on participation in CCOP 60th Annual Meeting and 83rd Steering Committee Meeting.

(受付：2025年2月26日)